

賛否の公表

※採決で賛否が分かれた案件の審議内容です。これ以外の案件は全会一致で可決等されています。
なお、紙面の都合で賛成・反対討論は抜粋しその要旨を掲載します。

● 採決結果一覧表 ●

(賛成=○、反対=×)

議席	氏 名	会 派	議案 第18号	議案 第20号	議案 第24号 【修正動議】	議案 第24号	請願 第22号	請願 第25号	請願 第24号	請願 第23号
1	鈴木 雅彦	奥和会	○	○	×	○	○	○	○	○
6	及川 佐		○	○	×	○	○	○	○	○
8	菅原 由和		○	○	×	○	○	○	○	○
12	千葉 正文		○	○	×	○	○	×	○	×
15	中西 秀俊		○	○	×	○	○	○	○	○
16	小野寺隆夫		○	○	×	○	○	○	○	○
18	中澤 俊明		○	○	×	○	○	○	○	○
20	藤田 慶則		○	○	×	○	○	○	○	○
23	渡辺 忠	市民クラブ	○	○	×	○	○	○	○	○
3	廣野 富男		×	○	×	○	○	○	○	○
10	高橋 政一		○	○	×	○	○	○	○	○
11	佐藤 郁夫		○	○	×	○	○	○	○	○
19	千葉 悟郎	日本共産党	×	○	×	○	○	○	○	○
24	佐藤 邦夫		×	○	×	○	×	○	○	○
2	千葉 敦		×	×	○	×	○	除斥	○	○
17	菅原 明		×	×	○	×	○	○	○	○
22	今野 裕文	新世会	×	×	○	×	○	○	○	○
27	及川 善男		×	×	○	×	○	○	○	○
4	佐藤 洋		○	○	×	○	×	×	×	×
5	菊池 利美		○	○	×	○	○	○	○	○
7	菅原 圭子	公明党	○	○	×	○	○	○	○	○
13	加藤 清		○	○	×	○	○	○	○	○
9	飯坂 一也		○	○	×	○	×	×	×	×
14	阿部加代子	無会派	○	○	×	○	×	×	×	×
25	内田 和良		○	×	×	○	○	○	○	○
28	小野寺 重	無会派	○	○	×	○	欠	欠	欠	欠
賛成：反対			19:7	21:5	4:22	22:4	21:4	19:5	22:3	21:4

※議長は採決には加わりません
(注) 請願は原案についての表決
(注) 請願第25号は請願者が議員本人のため除斥

議案番号	案 件 名
議案第18号	奥州スマートインターチェンジ整備事業に伴う工事等に係る契約の締結に関し議決を求めることについて
議案第20号	建物明渡し等請求事件に係る訴えの提起に関し議決を求めることについて
議案第24号【修正動議】	平成28年度奥州市一般会計補正予算（第3号）修正案
議案第24号	平成28年度奥州市一般会計補正予算（第3号）
請願第22号	若者も高齢者も安心できる年金制度の実現を求める請願
請願第25号	「消費税10%への増税中止」を求める請願
請願第24号	教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書の採択を求める請願
請願第23号	T P P協定を国会で批准しないことを求める請願

反対討論 あくまでも奥州市が事業の実施主体である以上、その責任を果たす義務は本市にあるもの。本来、対人的責任は事業者であるD I Oジャパンにあるが、すでに破産していることからそれはかなわぬものである。もともとこの事業の導入にあたっては、県が主導してきたことも事実で、その監督指導のもとで、本市

議案第24号 平成28年度奥州市一般会計補正予算（第3号）に対する修正動議
修正動議の内容…緊急雇用創出事業経費のうち、県補助金返還金12、593千円を減額修正しようとするもの

がD I Oジャパンの関連子会社である奥州コールセンターに事業を委託した経緯からしても県には道義的責任はあるが、同様の事業は、他の市町にもあり、県南の各市においても返還の意向であるとすれば、この問題を長期化させることは、奥州市にとって決して得策ではなく、県南他市との連携を重視し、今後は県との連携をより深め、雇用促進や産業振興に努力していくとした市長の判断に理解をするから、修正案には反対する。
賛成討論 本件は、D I Oジャパンが東日本大震災に乗じて、多額の国の補助金を食い物にした詐欺事件とも言えるべきもの。D I Oジャパンに関わる事業について

では、県が基金造成し、市町村が事業実施主体という形で推進されたものである。そもそもD I Oジャパンに関わる事業については、国、県が積極的に奨励し、導入された事業であり、事業実施にあたっては、県の指導、監督のもとに厳しいチェックを受けてきたものであり、県知事も県議会において、県の指導、監督責任を認め、県民と関係市町村に対し謝罪している。事業を積極的に奨励し、厳しく指導、監督してきた責任を棚に上げ、国や県に対し弱い立場にある市町村にその責任のすべてを負わせるというやり方には認めるわけにはいかないから、修正案には賛成する。